



上原秀樹先生の御退任を惜しむ

上原秀樹先生は2019年3月をもって本学を退職されました。先生は、2003年に本学経済学部経済学科教授として就任され、09年4月に大学院経済学研究科応用経済学専攻主任（11年3月まで）、11年4月に国際教育センター長（13年3月まで）、13年4月に大学院経済学研究科長（15年3月まで）と、要職を歴任されました。これらの大学院ならびに国際教育センターでの職務において、本学と中華人民共和国黒竜江大

学などとの提携にもご尽力されました。本学における担当科目は、大学院において「国際地域開発論」、学部において「アジア経済論」、「エネルギー資源論」、「食料資源論」、「専門演習」、「卒業研究」でした（担当科目は18年度の開講科目）。先生のご退任に際して、先生の履歴と業績を紹介するとともに、ご退任の祝辞を述べさせていただきます。

先生は沖縄県のご出身で、1972年9月にアメ

リカ合衆国ハワイ大学マノア校に入学され、75年12月に経済学士を取得されました。ハワイ大学大学院進学後は77年12月に経済学修士を取得され、81年3月にはPh.D. Candidacy を認可されました。ハワイ大学大学院博士課程での研究のかたわら、アメリカ合衆国東西センターの研究インターン（79年5月～82年3月）としても勤務されました。ハワイ大学マノア校や東西センターでの先生の研究は、穀物のなかでも、主に大豆・油脂類の貿易モデルに基づく分析と理論的研究でした。IMFモデルとも言われているArmington Trade Flow Modelを改良した貿易モデルの開発をはじめとして、いくつかのモデルへの批判的論評などを含めた適合性評価など、研究内容は広範囲に及びます。データを用いた分析としては、米国やブラジル、中国などの大豆生産主要国を中心に、大豆とその加工製品の輸出入にいくつかのモデルを適用した分析を実施されました。また、96年2月には日本大学大学院農学研究科において農学博士を取得されました。

ハワイ大学マノア校や東西センターでの研究活動ののち、1982年4月に千葉大学教養部講師に就任され、85年4月に助教授、87年4月に日本大学に移り、生物資源科学部教授（2003年3月まで）と、日本に帰国されてから5年間で教授に昇任されました。日本大学での16年間に於いて、先生は大学院研究指導教員（日本大学国際情報研究科99年4月；日本大学生物資源科学研究科2000年4月）としても教育に携わられました。そして、2003年4月に本学経済学部教授として就任されました。

大学での教育・研究のほかには、JICA「パラグアイ国経済開発調査」プロジェクト調査員（1998年9月～99年5月）やアジア生産性機構農業プロジェクトコンサルタント（2000年10月～03年3月）などの社会連携活動にも参加され

ました。学会活動などでは、The International Society for Southeast Asian Agricultural Sciences の編集委員（02年4月～現在に至る）や日本高等教育評価機構の経済分野の評価員（05年10月～07年9月）に就かれました。さらに、09年3月には、NPO法人「アジア近代化研究所」を長谷川啓之氏とともに設立し、16年12月まで理事兼副代表として運営に参画されました。アジア近代化研究所は、アジアのなかでも政情不安や経済危機、富の偏在などの問題に苦しむ国や地域の社会的生産基盤整備のための調査研究活動を行い、情報発信と啓発活動に努めるほか、現地において人材の育成や指導を行うなど国際協力支援活動を行い、それらの国や地域における健康で文化的な社会の実現に寄与することを目的とした機関です。

先生の研究は、ハワイ大学マノア校や東西センターにおけるアメリカ合衆国とブラジルの大豆輸出競争に係る研究からはじまりました。そののち、アジア諸国の食品産業と農業開発に研究対象が移りました。研究対象地域はフィリピン、マレーシア、タイ、ベトナム、台湾、中国、インドなどのアジア諸国に及びます。さらに、先生の研究は、食糧資源関連から医療、バイオエネルギー資源開発に分野が拡がり、ブラジル、ハワイ、沖縄、奄美に研究対象地域が展開しました。現在は、米中貿易摩擦の焦点でもある食糧安全保障問題としての大豆貿易が研究対象です。先生の研究は、研究生活の出発点である大豆の貿易モデルの研究から、食品産業やエネルギー資源開発の研究を経て、大豆貿易問題に回帰するという軌跡になっています。また、先生の海外での研究滞在は、ハワイ大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、オーストラリア国立大学、シンガポール国立大学などであり、農村地域でのフィールドワークも重視されました。先生の著書と論文については主なもの

のみ本稿の最後に掲載しました。このうち、『現代アジア事典』（文眞堂、2009）の編集と出版に対して、オンワード樫山財団図書出版賞を受賞されています。

先生は、教職員や学生の別なく、いつも優しく穏やかに人に接する方で、相手にあわせて話を丁寧にすすめられる方です。このようなお人柄から、先生は大学院生への指導も多く担当されました。2007年から18年にかけて、6名の主査と9名の副査の合計15名の大学院生の論文指導を担当されました。本学経済学研究科が同期間に受け入れた大学院生全体の約3割の指導を先生一人で担当されたこととなります。また、大学院生のフィールドワーク指導として、2007年8月には中国の大連市と沈陽市において、雇用と所得に係る調査やインタビュー、データ整理、分析などを指導されました。10年8月には、中国の上海市と河南省の農村地域の現地調査において大学院生のフィールドワーク教育を実施されました。担当された大学院生の数や夏休み期間の実地教育などからもわかるように、先生の本学大学院教育へのご貢献は卓越したものでした。

先生は、貿易モデルをはじめとしたモデル分析の理論と実証、及び広範囲の地域でのフィールドワーク経験をもって、本学経済学部と大学院経済学研究科に所属する教員や学生を導いてくださいました。ここに深く感謝申し上げます。先生のこれまでの多大なるご貢献には、私ども教員が複数をもって対応したとしても相等することは難しいものと思います。本学経済学部と大学院経済学研究科の研究・教育が、先生ご在籍の時期から衰退したと言われることのないように、先生の研究や教育への姿勢を範として努力していきます。今後、先生は研究分野である医療、バイオエネルギー資源開発に係る沖縄県でのお仕事を継続して実施されると聞いて

おります。先生のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

明星大学大学院経済学研究科 応用経済学専攻主任
稲葉由之

上原秀樹先生の主な著書と論文

著書：

- 『フードチェーンと食品産業』（共編著）、筑波書房、1995。
Growth of the Food Processing Industry in Asia and the Pacific, Asian Productivity Organization, 1995. (F. Suzuki, H. Uehara, R. Isarangkura, C.I. Chen, T. Watanabe, P.A. Hicks, Others)
「アメリカ合衆国とオーストラリアにおける食料消費の比較研究」、『アジアの食料と環境を考える－地域研究の新たな展開に向けて－（龍溪書舎）』、pp.187-208, 1997.
『開発と貿易の新潮流－開発途上国における農業・農村開発の課題と展望』（共著）、アイ・ケイコーポレーション、2004。
「ベトナム－持続的発展への模索」、『グローバル化時代のアジア経済－持続的成長の可能性（創土社）』、pp.291-311, 2004。
『食料需給と経済発展の諸相』（共編著）、筑波書房、2008。（山田三郎監修、編著者：上原秀樹、下渡敏治、板垣啓四郎）
『現代アジア事典』（共編著）、文眞堂、2009。（長谷川啓之監修、編著者：上原秀樹、川上高司、谷口洋志、辻忠博、堀井弘一郎、松金公正）
『アジア経済発展論』（共著）、文眞堂、2010。（長谷川啓之、嘉数啓、上原秀樹、谷口洋志、辻忠博、中田勇人、誉清輝）
『インドのフードシステム』（共編著）、筑波書房、2014。（編著者：上原秀樹、下渡敏治）

訳書：

- 『食糧安全保障』、文眞堂、1990。

論文：

- A Study on the Structure of World Soybean Trade from the Late 1960s to the Early 1970s, *East-West Center Reprint* R-80-3, pp.1-39, 1980.
大豆の世界貿易に関する一考察－コンスタントマーケットセア分析による－、『世界経済評論』、24(9)、pp.56-67, 1980.
Japanese Oilseed Policy and World Trade in Soybeans -

- An Introduction and Methodology-, *East-West Center Working Paper* WP-80-7, pp.1-41, 1980. (with T. Rodney)
- トレードフローモデルの中間消費財に対する適用性、『世界経済評論』, 25(6), pp.80-88, 1981. (with T. Rodney)
- A Note on Stock Holding and Government Intervention, 千葉大学教養部『研究報告B』, (15), pp.195-201, 1982.
- Literature on Commodity Stability and Its Relevance to Japan's Food Security: An Interpretation, 千葉大学教養部『研究報告B』, (16), pp.79-87, 1983.
- 供給安定化政策の経済評価－食糧備蓄と自給率を中心に, 千葉大学教養部『研究報告A』, (17), pp.33-52, 1984.
- CMS (Constant Market Share) モデルによる加工水産食品貿易の分析, 『拓殖学研究』, 32, pp.51-57, 1989.
- 環境問題の経済分析－家庭ゴミの効用分析とその排出量要因の回帰分析, 『開発学研究』, 4(1), pp.78-86, 1993. (with T. Saitou)
- A Comparative Analysis on Household's Processed-Food Consumption in Asia, 『開発学研究』, 4(2), pp.20-30, 1994.
- 東南アジアの食品工業－環境問題とフードシステムからの課題－, 『開発学研究』, 7(2), pp.105-113, 1997.
- 東南アジア諸国の食料消費パターン－加工食品と外食を中心に－, 『フードシステム研究』, 5(2), pp.18-23, 1998.
- Investment, Productivity, and Policy Implications of the Investment Behavior in Indonesia, *A Comparative Study on Economic Crises and Their Impacts on Food-Systems in East Asia* (ed. S. Yamada, College of Bioresource Sciences, Nihon University), pp.69-82, 2001. (with H. Kataoka)
- An Analysis on the Structure of Central Provident Fund in Singapore, 『開発学研究』, 12(1), pp.100-107, 2001. (with T.B. Nga)
- Issues and Problems of Japan's ODA Projects and Their Implications for Agricultural Cooperation in East Asia, *Journal of Asia Pacific Studies*, 9(2), pp.3-24, 2002.
- インドネシアの開発政策と投資パフォーマンス, 『明星大学経済学研究紀要』, 37(2), pp.1-14, 2006. (with H. Kataoka)
- Regional Identity of Environmental Ethics and Values in Northeast Asia, 『明星大学経済学研究紀要』, 38(1), pp.37-47, 2006.
- タイ経済の発展と成長パターンの分析－1960年代以降アジア通貨危機までの展開－, 『明星大学経済学研究紀要』, 39(2), pp.1-20, 2008.
- 東マレーシアにおける開発と環境資源管理－サラワク州の事例にみる課題－, 『明星大学経済学研究紀要』, 40(1), pp.1-17, 2008.
- インドのマクロ経済の動向と食料・食品産業の位置づけ－中国と比較した視点から－, 『IAM e-Magazine』, 5, pp.1-20, 2013.
- 緊急時における途上国の食糧供給体制－マレーシアのサラワク州を事例として－, 『IAM e-Magazine』, 6, pp.1-16, 2013.
- インド新政権のメディノミクスとその課題, 『IAM e-Magazine』, 10, pp.1-6, 2014.
- インド経済とメディノミクスに対する評価, 『IAM e-Magazine』, 14, pp.1-10, 2015.
- フォルクスワーゲン社の不正問題とTPP交渉の分析, IAMアジア・レポート, 7, pp.58-64, 2016.
- 中国における食料消費の変容－南北間の外食行動に関する比較分析を中心に－, 『IAM e-Magazine』, 17, pp.52-69, 2016. (with 孫明月)